

佐野短期大学シラバス2014

| 科目名 Course Name | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|---|--|-----------------|--------------|
| 経営財務論 I financial management I | 2年 | 前期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 | 特になし |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | |
| 経営学 I・II、ファイナンシャルプランナー I・II、証券と金融 I・II、ビジネス実務総論 I・II、経済学、会計学、簿記 I・II | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | |
| 経営学 I、証券と金融 I、ビジネス実務総論 I、ファイナンシャルプランナー I | | | |
| 担当者に関する情報 | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | 電話番号・メールアドレス |
| 國分三郎 | 本館 2F | 木曜日 12:10~13:00 | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | |
| 経営財務論とは、企業資金の調達と運用に関する学問である。本講義では、規範論的財務論の立場から、経営財務全般を概観した後「株主の富」や「財務リスク」「キャッシュフロー」といった今日の経営財務論の基本的な概念や理論を取り上げる。さらに、講義の中で今日的な金融の量的緩和といった時事問題もとりあげる。 | | | |
| 授業の目標 | | | |
| ①株価決定理論に基づき証券市場における投資家の行動様式を理論的に説明できるようにする。 ②経営財務の概念と理論によってわが国企業の財務活動に関する新聞やTVのニュースの初歩的な解説ができるようにする。 | | | |
| 授業の方法 | | | |
| 基本的に講義方式であるが出来るだけ対話方式を取り入れて受講者の理解を深めたい。また、DVD、新聞やTVの財務に関するニュースを解説しながら受講者が興味をもてる様に進めたい。 | | | |
| 学習の成果(学習成果) | | | |
| 経営財務の基本的な概念や理論を活用して、今日の経営財務の問題や課題を理論的に説明できるようにする。 | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | |
| 第1回目 | はじめに(シラバスの説明、講義の狙いと進め方、成績評価の説明、受講の態度の説明) | | |
| 第2回目 | 経営財務論とは(激動期における我が国企業の課題、現代ファイナンスの体系、経営資源とファイナンス) | | |
| 第3回目 | 財務政策と財務的意思決定(ポリシーミックス、ファイナンシャルミックス、配当政策) | | |
| 第4回目 | 株主富の極大化(株主の富とは、株主富の極大化の財務的意義、利益概念との違い、企業観との関係) | | |
| 第5回目 | 経営財務におけるリスク(リスクとは、リスクの発生要因、リスク概念の財務的意義、リスクの種類) | | |
| 第6回目 | 投資家とその行動様式(投資と投資家、投資家の種類、投資家の行動様式) | | |

| | | | |
|--|--|-----|--|
| 第7回目 | キャッシュフロー経営①(キャッシュフローとは、キャッシュフローの財務的意義、キャッシュフローの種類、CF計算書における分類) | | |
| 第8回目 | キャッシュフロー経営②(キャッシュフロー計算の一般式、減価償却とキャッシュフロー) | | |
| 第9回目 | 貨幣の時間価値①(貨幣の時間価値とは、現在価値と未来価値、利子の存在と時間価値) | | |
| 第10回目 | 貨幣の時間価値②(未来価値の現在価値化、時間価値を考慮した経済計算) 小テスト | | |
| 第11回目 | 株式評価モデル①(株式評価モデルとは、経営財務における株式評価モデルの意義、株式の経済価値) | | |
| 第12回目 | 株式評価モデル②(短期間モデルと多期間モデル、割引配当モデルの意味) | | |
| 第13回目 | 資本コスト(資本コストとは、経営財務における資本コストの意義、資本コストの種類、資本コストの計算) | | |
| 第14回目 | 経営財務論 I に関する理解度を確認するため、講義全般の範囲を対象とした試験 | | |
| 第15回目 | まとめと講義の振り返り(授業の補足すべき内容の説明や受講者からの質問に答える) | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| | 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| | 授業参加態度 | 30% | 最高水準(S)としては無遅刻・無欠席で、授業に集中し講義への質問を積極的に行う。 |
| | レポート | | |
| | 調査報告書 | | |
| | 小テスト | 10% | 最高水準(S)としては、5つの専門用語を90%の正解をもって解答する。 |
| | 試験 | 60% | 最高水準(S)としては、課題の意図を理解して、必要な専門用語を使い論理的一貫性をもって論述する。 |
| | 発表内容(態度含む) | | |
| | その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | | |
| 教科書は使用しない。必要になった場合、そのつど資料を配布する。 | | | |
| 履修上の留意点・ルール | | | |
| 欠席や遅刻、私語は慎むこと。無断欠席:5点減点。遅刻2回:5点減点。飲食物の持ち込み禁止。携帯はマナーモードにすること。 | | | |